



C&F LOGISTICS

2022年度

第1四半期決算説明資料

株式会社C&Fロジホールディングス

■営業収益

28,158百万円
(前期比+1.0%)

- ▶ 新規物流施設の開設をはじめとする物流インフラ再編に伴う新規業務の獲得。
- ▶ 外出機会の増加に伴い、業務用食品の取扱物量が回復傾向。
- ▶ コンビニエンスストア物流については、コロナ禍の影響を引き続き受けるなか、顧客の物流再編が進捗し、一部配送コース数・便数が減少することとなり、物量は低調に推移。

■営業利益

1,198百万円
(前期比△27.2%)

- ▶ 原油取引価格の高騰をはじめとするエネルギーコストの大幅上昇により、燃料費・動力費が大きく増加
- ▶ 従来から引き続き正社員登用による定着化・業務内製化を推進したこと、ならびに処遇改善を計画的に進めたことによる正社員に係る労務コストの増加。
一方で、準社員・臨時要員の人員減により労務コストが減少。

決算概要(ハイライト)

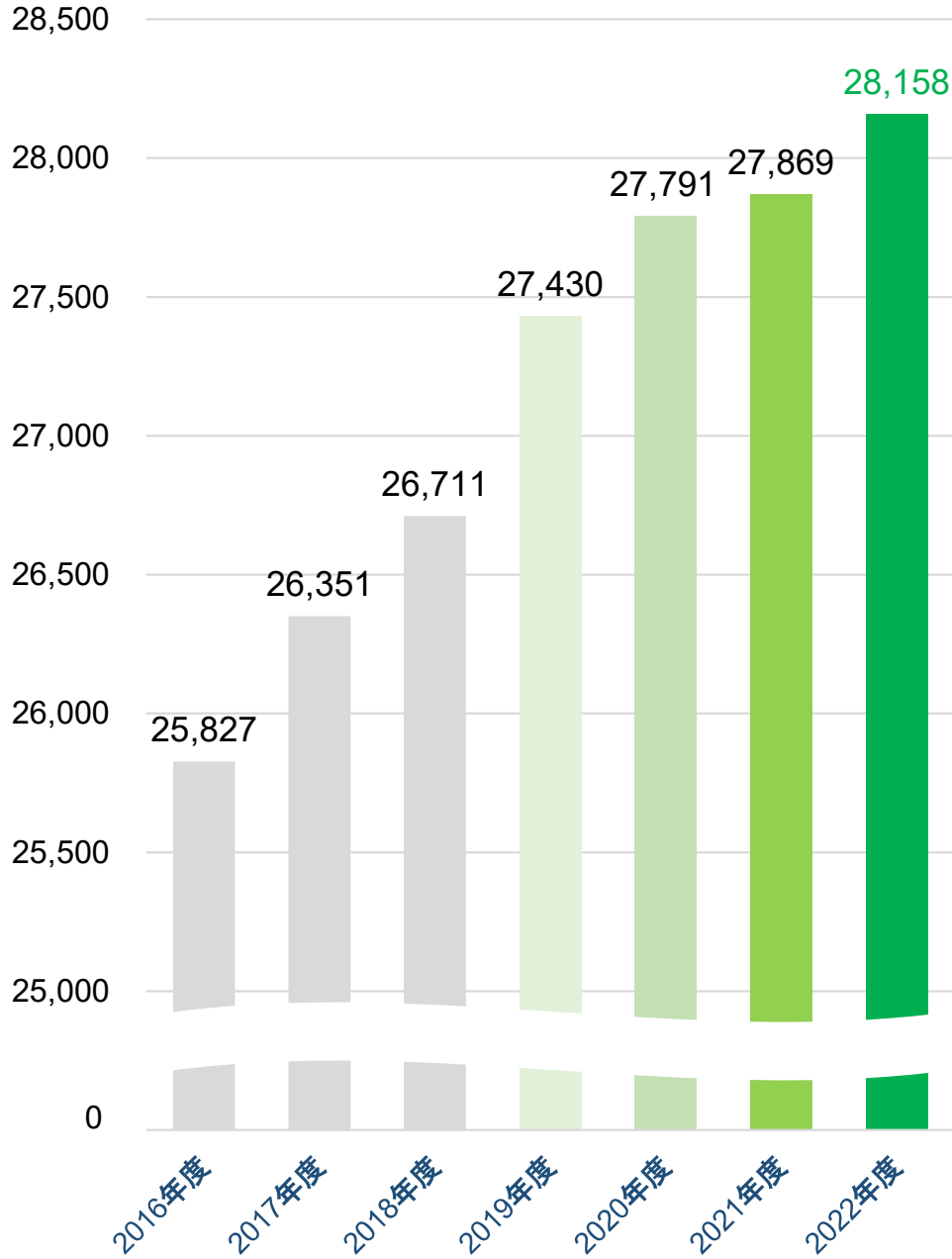
(単位:百万円)

	前期実績		当期実績			
		収入比		収入比	対前期 増減額	増減率
営業収益	27,869	100.0%	28,158	100.0%	288	1.0%
営業原価	25,195	90.4%	25,893	92.0%	698	2.8%
販売費及び一般管理費	1,027	3.7%	1,066	3.8%	38	3.7%
営業利益	1,646	5.9%	1,198	4.3%	△ 447	△27.2%
経常利益	1,870	6.7%	1,358	4.8%	△ 512	△27.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,311	4.7%	854	3.0%	△ 456	△34.8%

決算概要(推移)

営業収益

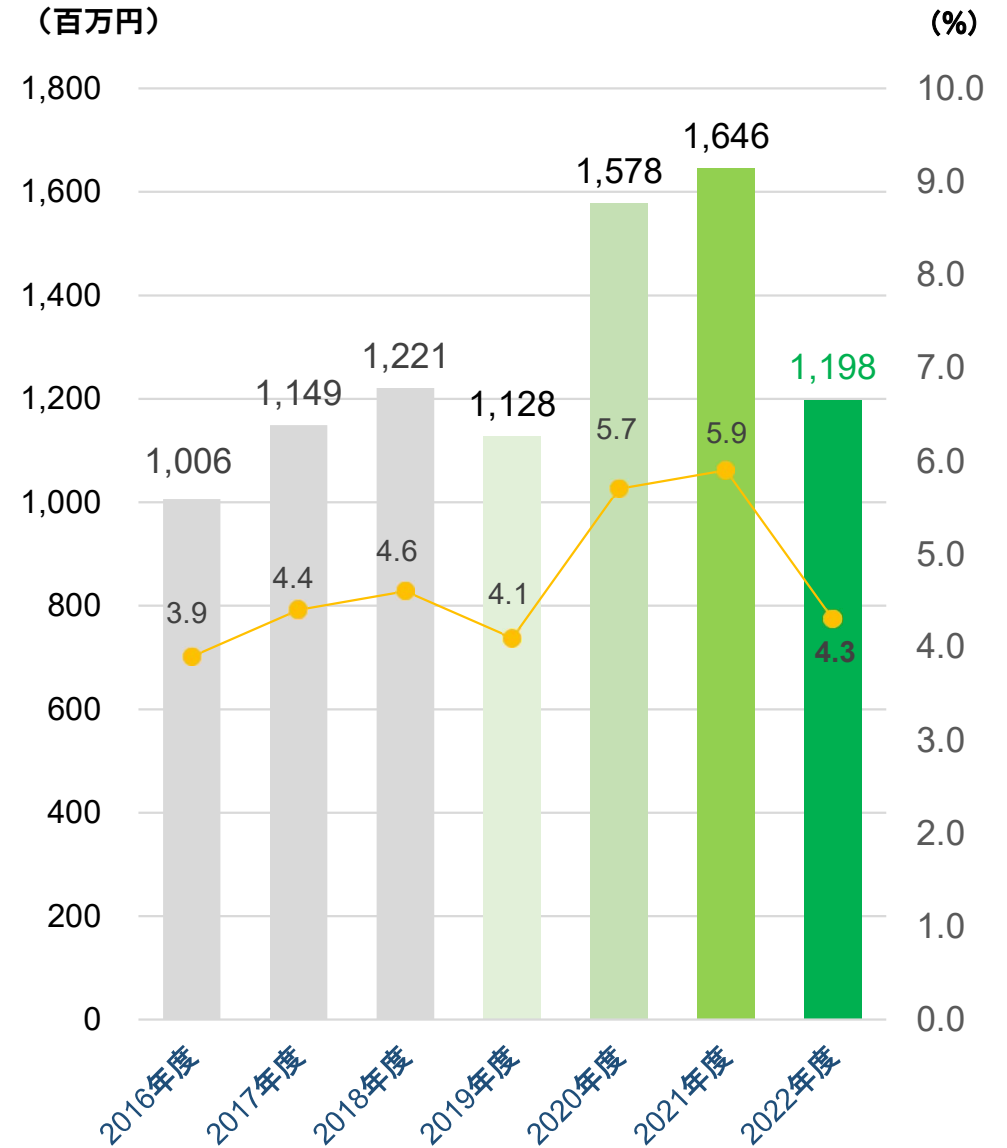
(百万円)



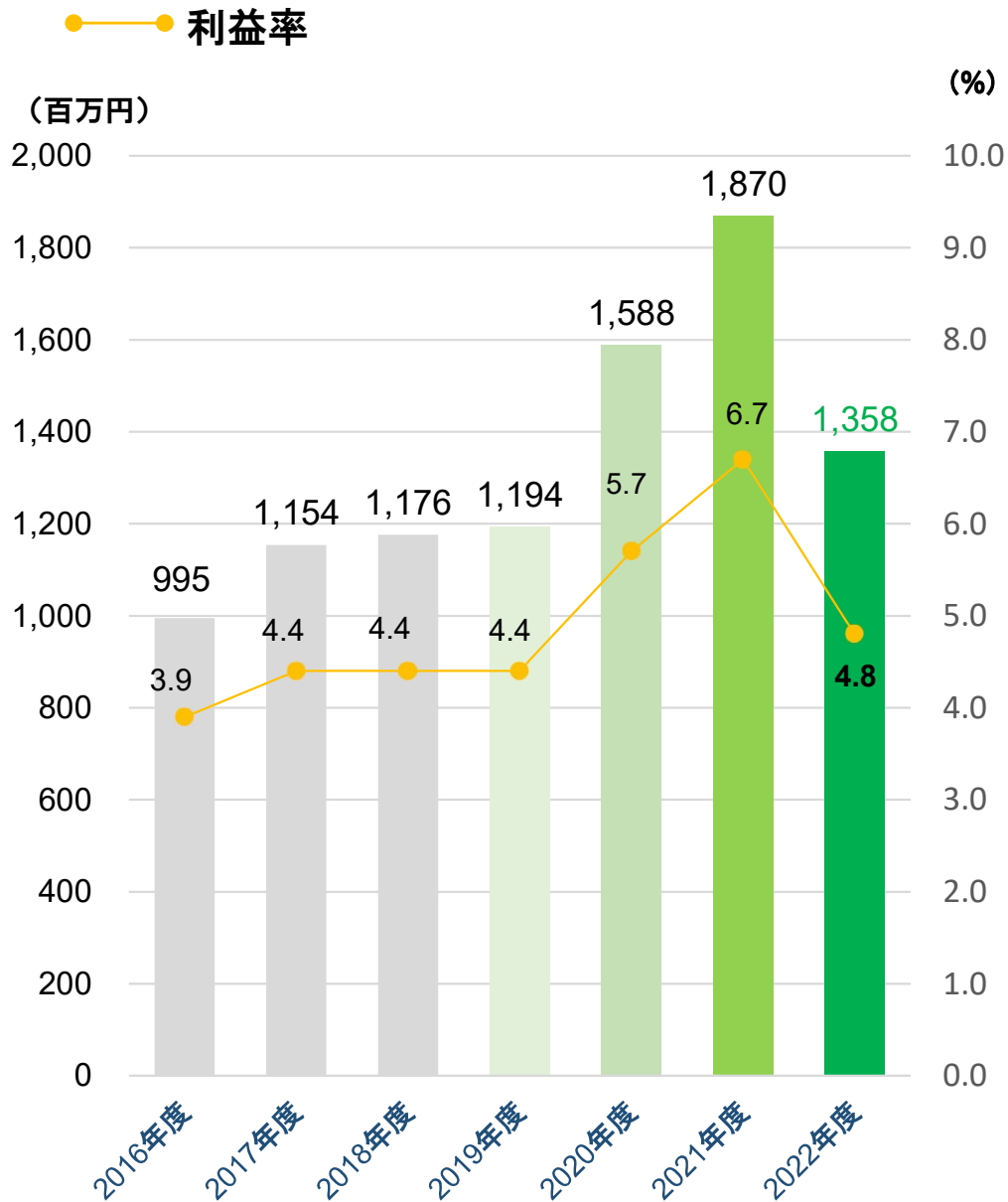
営業利益

● 利益率

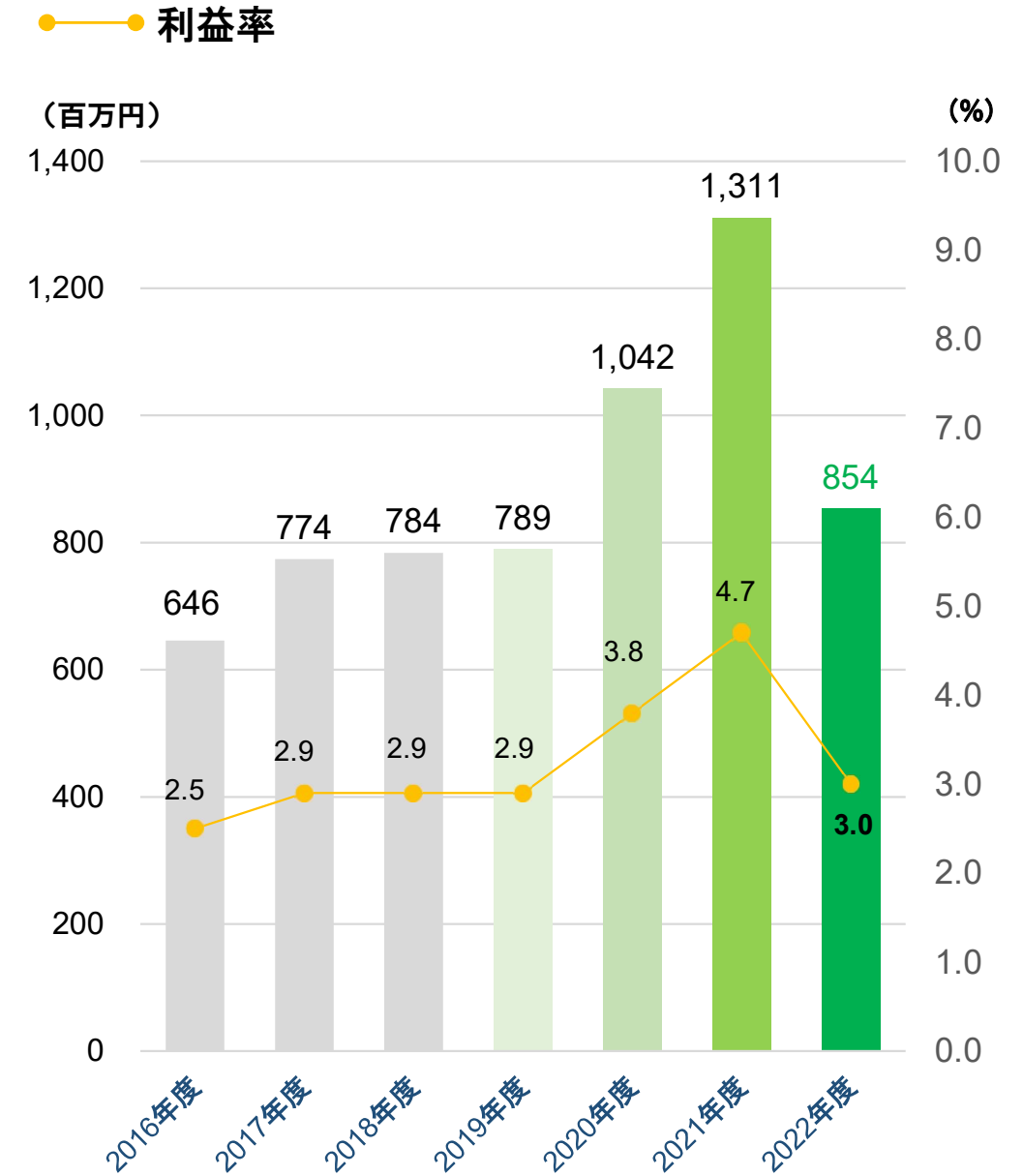
(百万円)



経常利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



セグメント別営業収益および利益の概要

(単位:百万円)

		前期実績		当期実績			主な増減要因	
			構成比		構成比	対前期増減率		
TC事業 <small>(通過型センター事業)</small> Transfer Center	営業収益	18,029	64.7%	18,099	64.3%	0.4%	増加要因 ・新規物流施設の開設をはじめとする物流インフラの再編に伴う新規業務の獲得。 (首都圏物流センター、岡山物流センター 他)	
	セグメント利益	1,188	43.8%	976	42.3%	△17.8%	・原油取引価格の高騰による燃料費増加。 ・正社員登用、処遇改善による労務費増加。	
	(利益率)	6.6%		5.4%				
<small>(注1)</small> DC事業 <small>(保管在庫型物流事業)</small> Distribution Center	営業収益	9,399	33.7%	9,609	34.1%	2.2%	増加要因 ・新規物流施設の稼働開始をはじめとする物流インフラの再編に伴う新規業務の獲得。(中部支店第三期増築棟 他) ・外出機会の増加に伴い、業務用食品の取扱物量が回復傾向。	
	セグメント利益	1,482	54.7%	1,286	55.7%	△13.2%	増加要因 ・業務効率化・内製化による人材派遣等の労務費削減。	
	(利益率)	15.8%		13.4%				減少要因 ・一部取引先の物流再編に伴う物量減少。
								減少要因 ・燃油単価上昇などによる電力料金単価上昇に伴う動力費増加。
<small>(注2)</small> その他	営業収益	440	1.6%	450	1.6%	2.2%		
	セグメント利益	38	1.4%	46	2.0%	19.1%		
	(利益率)	8.8%		10.3%				

(注1)『DC事業』にはベトナム事業が含まれております。

(注2)『その他』には警備輸送業、病院等関連物流業、人材派遣業、および保険代理店業等が含まれております。

業態別営業収益の概要

(単位:百万円)

	前期実績		当期実績				主な増減要因
		構成比		構成比	増減額	増減率	
共同配送 (注1)	16,371	58.7%	16,596	58.9%	225	1.4%	<p>増加要因</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規物流施設の開設をはじめとする物流インフラ再編に伴う新規業務獲得。 外出機会の増加に伴い、業務用食品の取扱物量が回復傾向。 <p>減少要因</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部取引先の物流再編に伴う物量減少。
コンビニエンスストア物流	3,740	13.4%	3,711	13.2%	△ 28	△0.8%	<ul style="list-style-type: none"> 物流再編による配送コース数・便数の減少。 テレワークの浸透などによる都心店舗向け配送物量の減少は一部回復が見られるものの、引き続き低調に推移。
チェーンストア物流	3,417	12.3%	3,393	12.1%	△ 24	△0.7%	<ul style="list-style-type: none"> 一部取引先の量販店事業縮小に伴う物量減少。
問屋物流 (注2)	2,528	9.1%	2,469	8.8%	△ 58	△2.3%	<ul style="list-style-type: none"> 一部取引先の物流再編に伴う物量減少。
保税・加工	720	2.6%	836	3.0%	116	16.2%	<ul style="list-style-type: none"> リパック加工生産量の好調に伴い物量増加。 コロナ禍以降の輸入物量の低調が回復傾向。
その他 (注3)	1,091	3.9%	1,150	4.1%	58	5.4%	<ul style="list-style-type: none"> 経済活動の回復に伴う、化粧品・雑貨の取扱物量回復。 円安の進行に伴う為替影響により増収。
【合計】	27,869	100.0%	28,158	100.0%	288	1.0%	

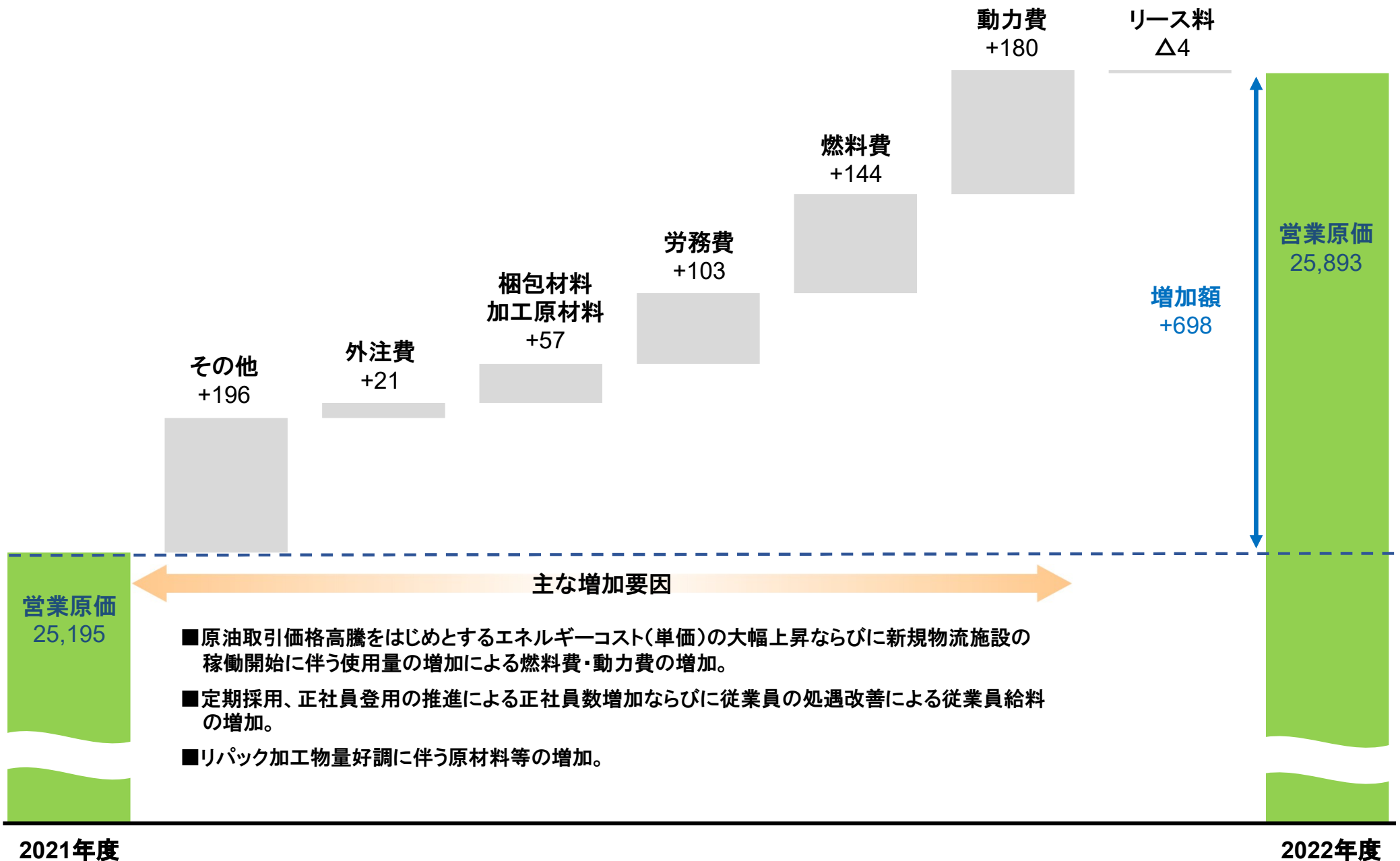
(注1)『共同配送』はHNIにおけるフローゼン(DC事業)およびMUにおけるチルド(TC事業)を合算した数値になります。

(注2)『問屋物流』には病院食材物流が含まれております。

(注3)『その他』にはベトナム事業が含まれております。

営業原価の分析

(単位:百万円)



2021年度

2022年度

人員と車両台数の比較(前期末比較)

(1)人員の比較

(単位:人)

	前期末 (2022年3月末時点)	当期末 (2022年6月末時点)	増減	主な要因
社員 (内、ドライバー)	5,792 (2,921)	5,986 (2,949)	194 (28)	・新卒者定期採用(137名) ・正社員登用による増加
契約社員・臨時要員 (内、ドライバー)	5,742 (1,229)	5,653 (1,204)	△ 89 (△ 25)	・正社員登用による減少 ・一部業務負担減少によるパート・アルバイトの登録者数減少。
合計 (内、ドライバー)	11,534 (4,150)	11,639 (4,153)	105 (3)	

(2)車両台数の比較

(単位:台)

	前期末 (2022年3月末時点)	当期末 (2022年6月末時点)	増減
大型車	691	695	4
中型車	1,554	1,555	1
小型車	457	456	△ 1
現金輸送車	126	123	△ 3
合計	2,828	2,829	1

低温物流の新たな価値を創造します。



C&F LOGISTICS

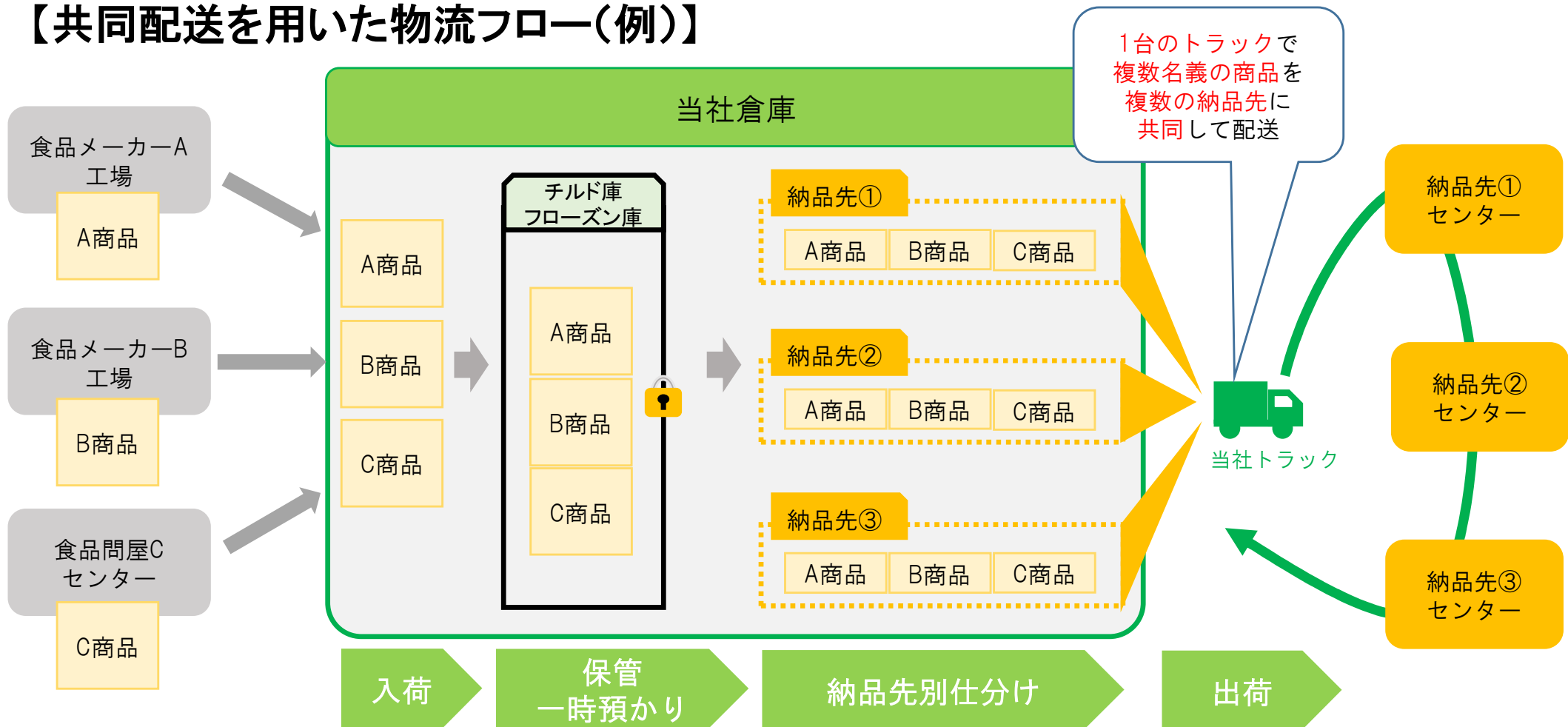
- ※ 本資料は、2022年度の当社の連結決算公表時(8月10日)の数値をベースに、作成日現在(8月12日)において、入手可能な情報に基づき作成したものです。
今後の業績等につきましては、様々な要因によって変動する可能性がありますので、お含みおきください。
- ※ 本資料は当社グループの決算概要をご理解いただくことを目的として作成したものであり、株式会社C&Fロジホールディングスの株式等の売買の勧誘を目的とするものではありません。

本資料に関するお問い合わせ先
株式会社C&Fロジホールディングス
TEL:03-5291-8100 FAX:03-5291-6150
広報IR部/団 俊貴

参考情報



【共同配送を用いた物流フロー(例)】



荷主様が自社で配送する場合 ……荷主様ご自身がトラックを用意し納品先①、②、③にそれぞれ納品

当社(共同配送)を用いる場合 ……当社倉庫への納品のみ



- ・荷主様の物流コスト削減が可能。
- ・物流フロー上のリスク移転が可能。
- ・使用する車両台数が減ることで、排気ガス排出量削減。

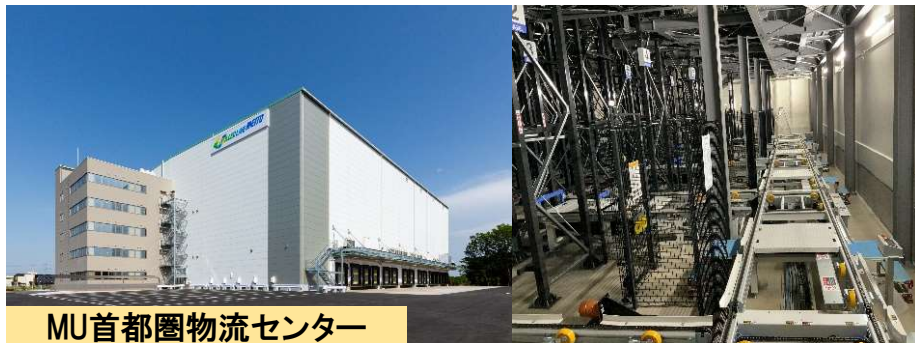
TC事業

Transfer Center
通過型センター事業

365日24時間体制で、主にチルド食品を中心とした低温食品の物流センター業務および輸配送を行う。

→ 保管期間が短く、ほとんど預り在庫を持たない(≒通過型)事業モデル

- ▶ **共同配送事業** 異なる複数の顧客から商品を預かり、届先別に仕分けを行った後、混載にて輸配送を行う事業。
- ▶ **コンビニエンスストア物流事業** コンビニエンスストア各社の商品センターの運営および店舗配送を行う事業。
- ▶ **チェーンストア物流事業** スーパーマーケット等の量販店のチルド・ドライ商品の商品センターの運営および店舗配送を行う事業。

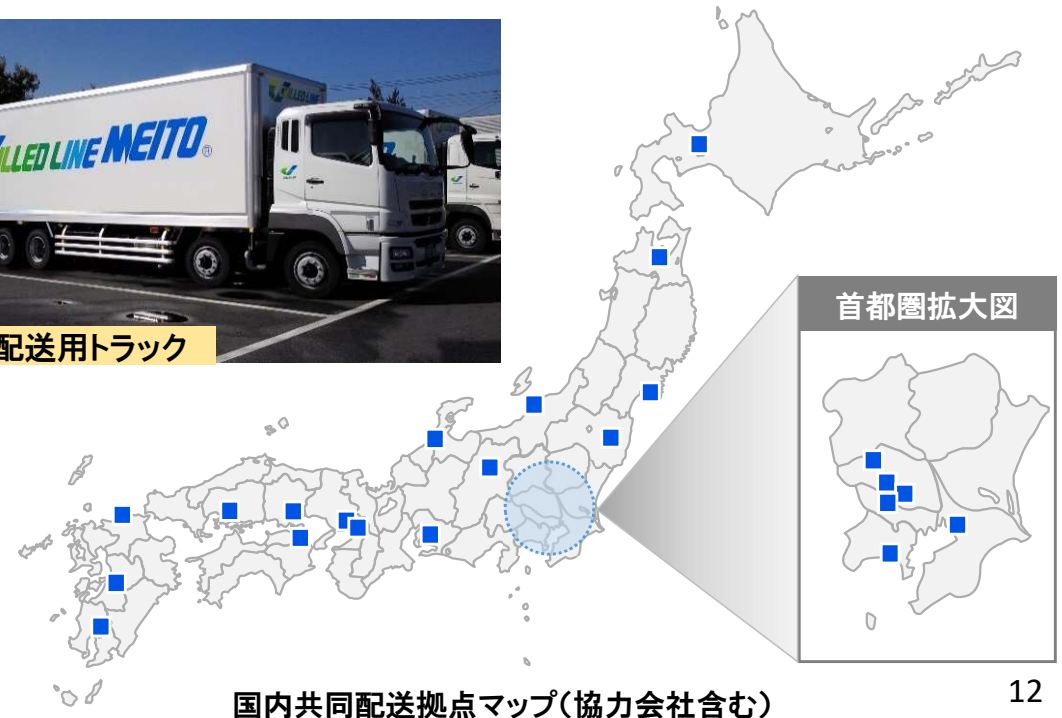


MU首都圏物流センター



MU輸配送用トラック

- 拠点数 関東地方を中心に全国93店所
(協力会社除く)
- 主な取扱品目
 - 市販用チルド飲料・チルドデザート
…スーパーマーケット、コンビニエンスストアなど
 - 市販用ドライ食品
…スーパーマーケットなど



国内共同配送拠点マップ(協力会社含む)

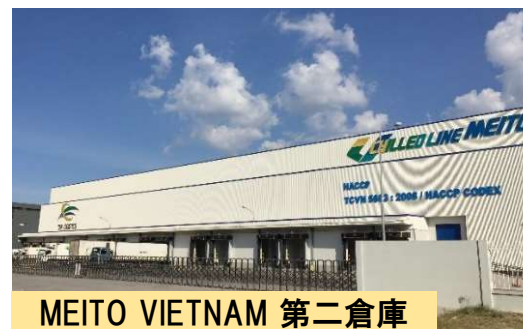
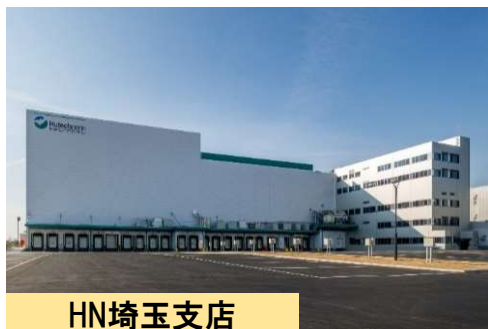
DC事業

Distribution Center
保管在庫型物流事業

主に**冷凍食品**の保管・荷役および輸配送を一体的に行う事業。
当社の倉庫内にて多様な寄託貨物の保管・名義変更や車両別・届先別の仕分けを行うと共に、専用車による輸配送業務を行う。

➡ 保管期間が長く、**預り在庫を持つ(≒保管型)**事業モデル

- ▶ **共同配送事業** 異なる複数の寄託者から商品を預かり、届先別に仕分けを行った後、混載にて輸配送を行う事業。
- ▶ **病院食材物流事業** 約3,300の医療・福祉施設等への給食用食材を仕分け・配送する。
- ▶ **リパック加工業** 冷凍野菜等の原料に市販用・業務用としてパッケージ詰め加工(=リパック加工)を施す。
- ▶ **海外(ベトナム)事業** ベトナム社会主義共和国において、主に冷凍食品の加工原材料の保管、荷役、配送を行う。
(“MEITO VIETNAM CO., LTD.”、“T&M TRANSPORTATION CO., LTD.”)



- 拠点数** 関東地方を中心に全国28店所
(ベトナム・協力会社除く)
- 主な取扱品目**
- 業務用冷凍加工食品
…レストラン、病院、老介護施設など
 - 市販用冷凍加工食品
…スーパーマーケット、コンビニエンスストアなど



その他

主要事業であるDC事業・TC事業以外の物流業務に関連する付帯サービスを中心とした事業

- ▶ **警備輸送業** 警備業法に基づき、首都圏の金融機関で取り扱う現金や手形などの重要書類や、貴重品等の警備輸送を行う。
- ▶ **病院等関連物流業** 病院はもとより老人ホーム、老人健康管理施設や薬局まで関東1都6県約2,000件の医療福祉関連施設を対象にリネン類(シーツ、タオル、白衣等)の配送・集荷作業を行う。
- ▶ **人材派遣事業** 乗務員、倉庫作業員等、物流業務に特化した人材をグループ内外へ派遣。
- ▶ **保険代理店業** 車両を中心とした保険商品をグループ各社、取引先、従業員・従業員の家族等に提案する代理店事業。

など・・・